

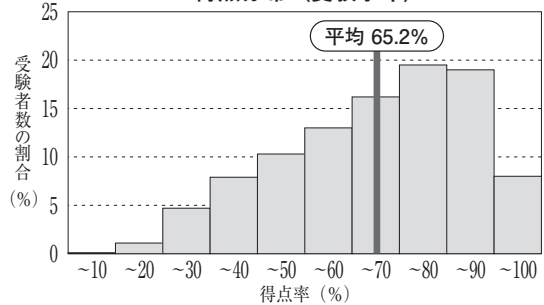
英語 (筆記)

得点力アップを目指し、弱点補強に努めよう。

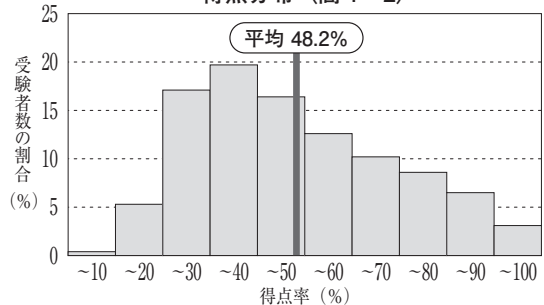
I. 全体講評

全国統一高校生テストは毎年実施されるセンター試験の内容とレベルに準拠している。受験学年（高3生・高卒生）の人たちはすでに熟知している出題形式であろう。一方、初めて受験する高1生や高2生にとっては、語彙レベル、未習の文法事項、問題量に比しての時間的制約といった点で、ハードルの高さを実感した試験であったかもしれない。今回の受験学年の平均点は130.4点で、この時期としてはかなりよい結果であった。そして、高2生が103.8点、高1生が83.7点という成績である。これらの数値は現段階での学年別のレベル差を反映したものであろう。今回の結果を詳しく示すと以下のようになる。

得点分布 (受験学年)



得点分布 (高1・2)



II. 大問別分析

■各学年の平均点、大問ごとの得点率

学年	平均点	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問	第6問
高1	83.7点	43.2%	34.4%	52.8%	45.9%	39.2%	36.3%
高2	103.8点	53.4%	41.6%	62.9%	54.4%	50.7%	50.0%
受験学年	130.4点	63.9%	47.8%	75.3%	66.6%	68.0%	71.8%
全員	115.8点	57.7%	44.0%	68.4%	60.0%	58.8%	60.3%

第1問 発音・アクセント

基本事項をしっかり押さえよう！

第1問の受験学年の得点率は63.9%で、まずまず平均的な結果であった。このうちAの発音問題の平均が55.9%、Bのアクセント問題は69.9%と、やや発音問題のほうが低かった。小問毎の正答率を見ると、唯一50%に満たなかったAの問1を除けば50%台から70%台までの範囲内で安定していた。こうした結果を見ると、およそ標準的な問題に関しては、十分に対応できるだけの力がすでに備わっているようだ。とはいえ、油断は禁物である。

Aの問1はuの発音に関する問題で、[ju:]と[u:]の区別を求めるものだが、意外に正答率は伸びなかった。発音・アクセント問題を苦手としている人は、基本的な発音のルールやアクセントの傾向を再チェックして、日頃から音声を取り入れた学習をしてほしい。

第2問 文法・語法・整序作文・応答文完成 鍵を握る文法・語法の知識！

第2問の受験学年の得点率は47.8%で、大問別では最も低かった。小問別正答率の内訳は、Aの文

法・語法・語彙問題が56.8%、Bの整序問題が42.8%、Cの応答文完成問題が37.8%と、BとCがやや不振であった。ただし、Aでも問1の正答率は20%に満たなかった。promiseの語法を問うものだったが、promise to doとともにpromise that～の形を覚えておいてほしい。Bでは問1と問2の正答率がそれぞれ30%台と20%台に終わった。前者は接続詞的なthe way、後者は使役動詞makeとtaste Cという文型をテーマにしたものである。Cも最初の2問の正答率が30%台だった。語群を連結させる箇所なので、やはり文法・構文の知識が鍵を握る。文法分野で不安を抱えるところがあれば復習しておこう。

第3問 文脈把握(対話文空所補充・文削除・要約) 高いレベルで安定していた！

第3問の受験学年の得点率は75.3%と、すべての大問中最高の結果だった。Aの会話問題の平均正答率が86.7%で、不要文削除のBが69.9%、意見の要旨を選ぶCは74.7%で、バランス的に見ても申し分がない。小問別正答率に関しても50%台後半から80%台の範囲で非常に安定していたと言えるだろう。第3問では、会話、説明文、意見発表など、さまざまな種類の文が素材となっているが、どの形式であろうと試されているのは文脈把握力である。文の流れをつかむこと、どこに重点が置かれているかを見極めること、の2点が最も重要である。本番のセンター試験でも取りこぼしのないよう、ぜひこの調子を維持してほしい。

第4問 説明文と図表・説明文書などの読み取り 本文と選択肢の照合を厳密に！

第4問の受験学年の得点率は66.6%であった。グラフを含む説明文を素材としたAは66.5%、広告文書を素材としたBは66.7%と、ほとんど差は見られなかった。ただし、小問別に見ると、Aでは問3の正答率が40%台だったほかは50%台から80%台、Bでは問3が約40%にとどまった以外は70%台と80%台なので、この2問がやや足を引っ張ってしまった格好である。Aの問3は本文全体のテーマを問うもので、この大問では新傾向の設問である。問1のようなグラフの内容に関連する問題では細部の厳密な読み取りが求められるのに対し、こちらでは文全体の流れと論点を把握することが必

要である。また、Bの問3はオーソドックスな内容一致問題であるが、やはり本文の該当箇所を精読し、慎重に選択肢と照合しなければならない。正解を得られなかった人は過去問を含め、ぜひ類似問題に当たっておこう。

第5問 物語文の読解

説明文とは違う難しさがある！

第5問の受験学年の得点率は68.0%で、比較的良好な成績であった。小問別に見ても、正答率にしておよそ60%から70%台前半とバランスよく得点できていたので、特筆して注意しておくべき箇所はない。ただ、一般論として、ここではストーリー性のある素材文を用いているため、主観的な観察や意見が述べられることが多いので、説明文に比べ、筆者の言いたいことが多少つかみづらいケースもある。この種の文章では、想像力を働かせて状況を把握する必要もあることを念頭に置いてほしい。また、設問に関しては本文中の間接的なヒントから判断すべき場合があり得ることも指摘しておきたい。センター試験の大問の中でも、第5問は概して良好な結果を示す傾向がある。本番のセンター試験でも、この調子で安定した成績を期待したい。

第6問 説明的文章の読解

さらに高得点を目指してがんばろう！

第6問の受験学年の得点率は71.8%で、この大問としてはよくできていた。小問別の正答率も、50%台から80%台で、非常にバランスよく得点できていた。段落ごとの見出しを問うBでも60%近くの正答率を示したように、最後まで安定した力を見せてくれたのは高く評価したい。第6問では、各段落で述べられている論点の中心が何かを意識しながら文章を読む必要がある。それほど難解な文章ではなく、段落ごとの内容は割合にはっきりしているので、十分な時間があれば正解を得るのは難しくない。最後のほうは若干無回答率が高くなったが、全問を解くだけのスピードを身につけるために、今後も引き続き語彙力を強化するとともに、第6問に至るまでの解答効率を高めるように努力しよう。そうすれば、この大問の得点率も自然と上がっていくものと期待される。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆受験生及び既に受験勉強に励んでいる人へ

全国統一高校生テストは、センター試験の形式や難度を踏襲して作られている。受験生の諸君にとってはこれまでに養ってきた英語の実力を測るのに絶好の機会となったことだろう。来年度のセンター試験に向けて、各自が最高の準備をするために、これからの2か月あまりをできるだけ有効に使ってほしい。センター試験に限らず、英語の試験に対処する能力は、どれだけ文法や語彙などのツール(暗記項目)を身につけ、多読・多解の経験を積むかにかかっている。これらは互いにリンクしているが、中でも語彙力と多読が相互補完関係にあることは明らかであろう。したがって、今後の限られた時間の中でも、過去のセンター試験の問題はもちろん、レベル的にも内容的にも近い他の問題にあたるなどして、できるだけ多くの英文に触れるべきである。また、文法問題や発音・アクセントの分野は、短期間でも集中的に取り組めば、かなりの成果を得ることができる。熟語についても同様である。各自が自分に足りないと思われる分野を優先して補強に努めてほしい。

◆これから本格的な受験勉強に取り組む人へ

センター試験は高校の学習内容がきちんと身につけているかどうかを、総合的に測ろうとするものである。全体としては標準レベルであるが、80分という時間でこれだけの問題量をこなすには、出題形式への慣れや解答速度も含めた対応能力が求められる。そして、この能力を養うには早い時期からの準備が望ましい。まず、音声分野、つまり発音・アクセントである。発音・アクセントは問題を解くだけにとどまらず、将来、英語でコミュニケーションを行う際に非常に重要になる。英語の勉強には文字だけでなく、CDや音声データを活用して、日頃から音声学習を取り入れるようにしよう。英文を読むときもできるだけ音声教材を利用して、正しい発音に続いて声を出す音読を習慣化するとよい。そして、英語力の基礎をなすのは文法と語彙の力であるが、これらは発音・アクセント問題以外のすべてについて回る。なるべく早いうちに文法の知識を蓄え、多読を通じて語彙レベルを高めよう。この両輪が備わっていれば、解答速度も上がり、余裕を持って全

問題に対処することができる筈である。